

令和8年度 第2回 東伊豆町学校教育環境整備委員会 議事録

1. 日時 令和8年7月24日（金） 午後7時00分 ～ 午後9時00分

2. 場所 東伊豆町役場 1階 研修室

3. 出席者

- 東伊豆町教育委員会： 横山教育長、土屋事務局長、太田参事、飯田
- 委員（敬称略）： 黒田種樹（会長）、鈴木元一（副会長）、鈴木直樹（稲取小 PTA）、笠井奈緒（熱川中 PTA）、荒武優希（学識経験者）、安田和可子（熱川中校長）、山本英希（稲取中校長）、内山國治（区長会副会長）、高村明伯（稲取中 PTA）
- 欠席委員： 川口康介（熱川小 PTA）

4. 教育長挨拶

5. 前回の会議内容について（事務局）

6月18日開催の第1回委員会の議事録に基づき、会長・副会長の選任結果、諮問内容、及び「通学」「部活動」「教育環境の魅力」という3つの課題が明確になり、秋の保護者説明会で話すべき内容の選定と、具体的な方向性の導き出しを中心に進めていくこととなったことが報告された。

6. 議事

（1）これから議論すべき項目について

① 統合中学校の教育方針とメリット（資料1）

事務局より、福島県大熊町「学び舎ゆめの森」の事例動画（0歳～15歳のシームレスな学びと探究）が紹介された。続いて稲取中・熱川中の両校長より現在の教育方針が説明され、教育長より令和14年度の一貫教育校を見据えた「東伊豆ビジョン」と、生徒・教員・地域が支え合う「トライアングル構想」が示された。

（委員からの主な意見と事務局からの回答）

- 委員： 令和14年度の統合を見据え、中学校の先行統合は単なる通過点ではなく、12年間の積み重ねが得られる連続性（シームレス）のある学びとして定義すべきである。子育て世代には、この一貫した教育の価値が非常に魅力的に映るはずだ。
- 委員： 都市部の子供との学力・経験格差を懸念している。不登校対応も含め、新しい学校には質の高い教育を提供するための「マンパワー（教職員や指導員）」の確保と予算投入が不可欠である。
- 委員： 両校の目標に大きな問題がないのであれば、まずはそれらを融合させ、PDCAサイクルを回しながら東伊豆独自の教育を形作るべきである。
- 委員： 少人数校では全員が委員長などの責任ある役割を担わざるを得ないが、それは自信に繋がるメリットでもある。統合後も全員が主体的に関わり、何らかの「長」を経験できる機会を工夫して維持してほしい。

- **委員：** 統合により他地区の生徒と切磋琢磨し、適度な競争環境が生まれることは社会性を養う上でポジティブだ。東伊豆ならではの特色ある教育を確立し、生徒が減らない学校にしてほしい。
- **委員：** 地域を誇りに思える「郷土愛」や「共生」を育てる活動を重視したい。
- **事務局：** 少人数のメリットを活かしつつ、「東伊豆の学校はここが違う」と言える特色ある教育を確立したい。
- **会長：** 12年間のシームレスな教育方針に加え、異年齢の連携や、主体的に関わっていくことなどが大切。

② 通学について（資料2）

事務局より、まだ決定ではなく、詰めるべきところはある段階だが、スクールバスを基本とし、生徒が選択できる「ハイブリッド型通学システム」が提案された。議会の理解も必要だが、バス、電車、自主運行バスを選択でき、経済的負担を完全無償化（全額公費負担）する方針で検討していることが説明された。

（委員からの主な意見と事務局からの回答）

- **委員：** 経済的負担の完全無償化は保護者として非常に高く評価できる。3つの手段から状況に合わせて選べる柔軟なシステムも良い。
- **委員：** 説明会の際には、町がどこまで責任を持ち、どこからが保護者の責任か、「線引き」を明確に提示してほしい。
- **委員：** 経済負担がなければ、どの手段でも保護者の理解は得られやすい。安全性の確保を第一に考えてほしい。
- **委員：** 乗り継ぎの利便性や待ち時間の短縮など、システムとしての完成度を高めてほしい。
- **委員：** 急な日課変更への柔軟な対応が不可欠。また、土日の部活動や遠征にも活用したい。ただし、遅刻・早退時の送迎は安全管理上、保護者の責任とすべきだ。
- **委員：** スクールバスの確保台数と、効率的なルート設定が重要。学校行事での融通性も考慮してほしい。
- **委員：** 実際に運用するとなれば、「バスを利用できるエリアの線引き」が課題になる。不公平感が出ないように明確な基準が必要だ。
- **事務局：** 来年度の「統合準備会」にて、具体的なバス停や運行ルートの設計を行い、保護者の不安を解消していく。

③ 部活動について（資料3）

事務局より、生徒数激減により単独校でのチーム維持が限界である現状が報告された。解決策として、運営主体を学校から地域へ移す「地域展開」を目指す方針が示された。

（委員からの主な意見と事務局からの回答）

- **委員：** 地域移行の議論をするにあたり、まずは現場の先生方が今どのような課題感を抱えているのかを伺いたい。その実態を踏まえた上で、現実的な意見を考えたい。
- **委員：** 現在でも種目選択が難しく、町外のクラブへ通う生徒もいる。受け皿となる地域クラブにおいて、指導の質の担保と、学校と地域が同じ方向を向いて連携（ダブルチェック）できる体制が不可欠である。
- **委員：** 単独チーム維持は限界で、すでに合同チームでの活動も多い。教員側は専門外指導や休日対応、遠征の事務調整などの負担が限界に来ている。複数顧問体制や教員が本来の学習指導に専念できる環境を強く望む。
- **委員：** 生徒数・教員数ともに減る中、地域展開は妥当な選択肢だ。既存の種目に固執せず、例えばアニマルキングダム等の地元民間企業と連携した、東伊豆ならではの「ワクワクする部活動」を創設できないか。
- **委員：** 学校に頼りすぎるのはもう限界。地域へ移るなら、指導者の専門性や活動時間を主軸にして、子供たちが満足できる環境を整えてほしい。
- **委員：** 家庭の経済力によって格差が出ないように、会費設定や町の補助制度を慎重に設計してほしい。
- **委員：** 全員が競技志向ではない。地域に受け皿が少ない文化部への配慮や、小中合同の活動など、多様な居場所を検討してほしい。
- **委員：** 魅力的な選択肢がないために町外へ出てしまう生徒を食い止める必要がある。
- **委員：** 指導者の質や安全面、経済的格差の是正など、課題を一つずつクリアしていく必要がある。
- **事務局：** ニーズ調査を徹底し、隣接自治体との広域連携や教員の副業制度活用も含めた「東伊豆モデル」を構築していく。ワクワクする提案も前向きに模索したい。

④ その他議論すべき項目（資料４）

下田市の事例を参考に、校名、制服、教育課程の統一など、統合準備会において検討すべき具体的項目が確認された。

7. まとめと今後の課題

黒田会長より、本日の議論で「令和 11 年度の稲取中学校への先行統合」に向けた方向性が概ね合意されたとの総括があった。9 月の保護者説明会に向け、以下の項目を整理する。

- **通学支援策：** 完全無償化の具体案と、安全な運行システムのイメージ提示。
- **部活動の将来像：** 地域展開における指導者確保、費用負担、新種目の創設。
- **教育の魅力発信：** 先行統合が将来の一貫教育にどう繋がるかというメリットの提示。

8. 次回日程 令和 8 年 9 月 1 7 日（木） 午後 7 時 0 0 分 ～